

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT
2020
Winter

欧洲文明発祥の地 ギリシャ

第二特集
自然豊かな美しい南インド
古都コーチンを訪ねて



壮大な歴史ときらめく海 ギリシャの旅

世界屈指の観光大国、ギリシャ。およそ4000年の歴史をもつ国は欧州文明発祥の地でもある。多くの国で用いられているアルファベットは古代ギリシャ文明から発生し、思想、建築、文学、芸術など今日に至る文化の礎を築いたといえる。地中海の中心であったアテネからは民主主義(デモクラシア)が生まれた。壮大な歴史に思いを馳せながら、ギリシャ神話にまつわる数々の文化遺産を訪ねて古代ロマンに浸り、紺碧のエーゲ海を渡りながら美しき絶景を心に刻み込もう。



アクロポリスの麓にそびえるゼウス神殿。コリント式支柱の太さからも壮大さが伝わってくる。

CONTENTS

特集

壮大な歴史ときらめく海
ギリシャの旅 P3

古代遺跡が
アテネの歴史を語る P4

遺跡を巡ってカフェで一服
気ままな散策も楽しいプラカ地区 P6

青い空と海に、白い家
絶景広がるリゾート地 P7

PEACE BOAT Topics
クルーズ史上最大級のオーロラ発生
船上から見る光のショー P10

PEACE BOAT Topics
ピースボートよさこいプロジェクト
「ほにや丸」を結成 P12

第二特集

自然豊かな美しい南インド
古都コーチンを訪ねて P14

参加者インタビュー P18

表紙の写真

眩しいほどの青空、青い海に映える、サントリーニの白い街並み。

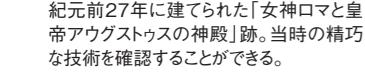




「高い丘の上の都市」という意味の「アクロポリス」。海拔150メートルほどにある自然の要塞が街のシンボルである。



大富豪アッティコスが寄贈した「ヘロド・アッティコス音楽堂」。客席は約5000。現在は修復されコンサートなどに利用されている。



紀元前27年に建てられた「女神ローマと皇帝アウグストゥスの神殿」跡。当時の精巧な技術を確認することができる。



アクロポリスの中心的存在の「パルテノン神殿」。柱の高さは約10メートル。縦は約70メートル、横は約30メートルある大きな神殿だ。



1:4~5万人収容できる「パナティナイコ・スタジアム」。座席は大理石でできている。シンメトリーの設計が美しい。2:スタジアムのコーナーに立つヘルメス像。



1:4~5万人収容できる「パナティナイコ・スタジアム」。座席は大理石でできている。シンメトリーの設計が美しい。2:スタジアムのコーナーに立つヘルメス像。




Greece
Athens・Santorini

Athens
アテネ

古代遺跡がアテネの歴史を語る

アテネの街を歩けば、いたるところに遺跡がある。古代遺跡の象徴が「アクロポリス」。神殿や塔が築かれた小高い丘を歩いていると古代にタイムスリップしたような気分になるだろう。ライトアップされる遺跡も幻想的だ。また市街地の散策など楽しみは尽きない。博物館に寄ったり、郷土料理を味わったり、ギリシャの魅力を堪能したい。

市街地にも遺跡は多い。アテネ

観光の起点になる「シンタグマ広場」の周辺には、第1回近代オリンピックの会場となつた「パナティナイコ・スタジアム」がある。起源前330年頃の建設で、長く埋もれていたが発掘後に修復され、2004年のアテネオリンピックではマラソンのゴール会場にもなつた。スタジアム内に入り展示物などの見学もできる。その近くの、アテネ最大の神殿遺跡である「オリンピエイオノン」劇場もある。

市街地にも遺跡は多い。アテネ観光の起点になる「シンタグマ広場」の周辺には、第1回近代オリンピックの会場となつた「パナティナイコ・スタジアム」がある。起源前330年頃の建設で、長く埋もれていたが発掘後に修復され、2004年のアテネオリンピックではマラソンのゴール会場にもなつた。スタジアム内に入り展示物などの見学もできる。その近くの、アテネ最大の神殿遺跡である「オリンピエイオノン」劇場もある。

観光の合い間に市街地を散策するのも楽しい。シンタグマ広場の国会議事堂前では衛兵交代式を見ることができる。西側にはアテネを代表するショッピング街「エカルムー通り」が延び、観光客も多く常に賑わいをみせている。歩き疲れて小腹が空いたら大衆食堂の「タベルナ」でギリシャの郷土料理を楽しむのもお勧めだ。

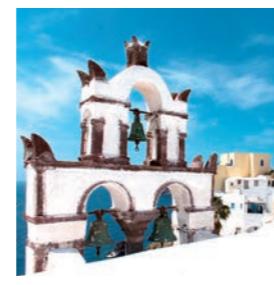
ギリシャの寄港地ペリウスは、首都アテネの玄関口である。いうまでもなくアテネは観光スポットの宝庫。選択肢は多いが、まず古代文明のシンボルである「アクロポリス」は外せない。その名は「高い丘の上の都市」を意味し、女神アテネを祭った古代の聖域だ。小高い丘にある神殿のなかで最も知られているのが「パルテノン神殿」。白大理石の円柱がそびえたつ重厚な神殿の完成は紀元前432年まで遡る。ドーリア式建物の最高峰といわれ、他を圧倒するような品格が漂っている。丘の麓には2つの劇場がつくられていて、そのひとつが「ヘロド・アッティコス音楽堂」。

4



青い空と海に、白い家 絶景広がるリゾート地

紺碧のエーゲ海に浮かぶ、三日月の形をした絶景のリゾート、サントリーニ島。雑誌やCMなどで使われる、ブルードームを思い浮かべる人も少なくないだろう。赤茶けた断崖の上に建つ青い屋根に白い壁の建物は、絵本から飛び出たようで、ヨーロッパ屈指のリゾート感を漂わせる。一方で、起源前に繁栄した都市の古代遺跡や博物館、ワイナリーなど観光地としての楽しみも多く、ゆっくりと島をまわってみたい。



切り立った崖に立つ家々と教会の鐘。



街を散策するだけでリゾート気分を満喫できる。



入り組んだ路地にレストランや土産物屋などのお店が並ぶ。観光客も多い。

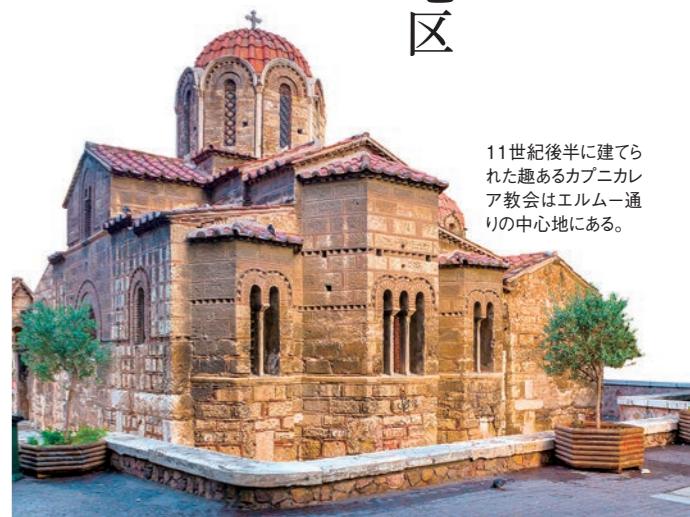


入り組んだ路地にレストランや土産物屋などのお店が並ぶ。観光客も多い。

プラカ地区は地下鉄のシンタグマ駅、アクロポリ駅、モナステイラキ駅を結んだ内側で、その利便性もあってアテネのなかでも多くの観光客が訪れるエリアのひとつ。アクロポリスの丘の麓に位置するので、観光ルートとしてもお勧めだ。古代から市民の生活の場として歴史を刻んできた旧市街には、昔ながらの石造りの家屋が並び緑も豊かだ。細い路地に迷い込むのが楽しみ方のひとつといわれるよう、歴史的な街並が保たれているなかを、ゆっくり

散策すれば異国情緒を満喫できる。アドリアヌ通り、キダシネオン通り、ムネシクレウス通りなどには多くの土産物屋が続き、お洒落なアカセサリー、雑貨など見飽きることがない。またプラカ地区にはカフェやレストランも多く、気軽にギリシャスイーツやギリシャ料理を楽しむことができる。

また、プラカ地区のまわりには遺跡も多くあり、大聖堂広場に立つ「ミトロポレオス大聖堂」は大統領宣誓式などの国家行事も行われる。そばにはビザンチン建築の装飾が見事な「ミクリ・ミトロポリ教会」もある。旧市街の入口にあたるモナステイラキ広場に面した「ハドリアヌスの図書館」はギリシャ文化に心酔していたローマ皇帝ハドリヌスの蔵書を収めていたものとして知られる。このほか郷土芸術博物館の「ツイスタラキス・モスク」をはじめ、美術館なども多く、散策の際に気になるミュージアムに立ち寄るのもいいだろう。



遺跡を巡ってカフェで一服 気ままな散策も楽しいプラカ地区



11世紀後半に建てられた趣あるカブニカレア教会はエルム一通りの中心地にある。



プラカは散策するだけで楽しい街。路地に入していくと小さな戸建てが並んでいる。



レストランも多く比較的リーズナブルな価格で食事ができる。



エーゲ海の風を受けながら 最も幸せな旅人になる

サントリニ島への上陸は、テンダーボートという通船に乗り換える。島に近づきながら海から見上げる、断崖の白い街並もまた壮観である。島の中心地フライラは、海面から300メートルの崖の上にあり、所要時間が5分程度のケーブルカーで登れば島が一望でき、息を呑むほど美しい景色が広がっている。海側に並んでいたり眺めのいいカフェで、しばらくの間リゾート気分を満喫するのもお勧め。

島の北端に位置するのがサントリニ第2の街、イア。石畳の細い路地にレストランや土産屋が軒を連ねる。特に白と青のコントラストの美しさは島随一で、散策の足取りも軽くなる。イアには街の景色に溶け込んだ美しい教会が多く、思わずシャツラーを押したくなる風景が続く。出港時間によつてはエーゲ海に沈んでいく夕日を見ることができ。それはまた忘れられないひとときになることだろう。

サントリニ島は火山島であり、多くの古代遺跡が眠っている。その

ひとつが紀元前1500年頃の大噴火で埋もれた古代都市「アクロティリ遺跡」。壁画や彫刻などの出土品は「先史ティラ博物館」や「考古学博物館」に展示されている。また島では良質なぶどうが育つため、ワインの生産が盛ん。ワインリー見学をした後、テラスでグラスを傾ければ至極の幸せだ。



1:カラフルなお店も多く、どこを切り取っても絵になる。2:高級感があり落ち着いた雰囲気のイアの街。3:石畳が敷き詰められた狭い路地を歩くのも楽しい。4:白と青で彩られた美しい街並はおとぎ話の世界のよう。5:散策しながら気になる土産屋に入ってみる。



島の北端にあるイアの街。絵はがきなどにも使われるサントリニを象徴する風景。

Greek Gourmet Food & Goods

地中海料理のひとつであるギリシャ料理。新鮮な魚介類が手に入るため、魚やエビ、貝などをを使った絶品が多い。また旬の野菜も種類が多く、野菜をメインにした料理も定番だ。シンプルに素材の旨味を活かすのが特徴。ヨーグルトはギリシャで紀元前から作られていたといわれ、さまざまな料理に用いられている。



新鮮なシーフードと野菜、素材を活かした料理の数々



•グリークサラダ

ホリアティキ(田舎風)サラダとも呼ばれ、シンプルな野菜の素材にフェチーズがのっている。



•ケフテデス

ギリシャ風のミートボール。牛肉やラム肉のひき肉にタマネギ、スパイスなどを混ぜて作る。



•カラマリ

イカのフライ。イカはギリシャ人の好物でイカのグリルに野菜を合わせることも。



•ムサカ

家庭料理の定番。ナスとひき肉を重ねホワイトソースをかけてオーブンで焼いた料理。



•スヴラキ

炭火でじっくり焼き上げたお肉。テイクアウトの屋台などでも気軽に食べられる。



•ヨーグルト

ギリシャヨーグルトは種類が多く、濃厚。ナツメやちみつをかけて食べるとさらに美味。

雑貨からお菓子、銘産品までお土産もさまざま



【サントリニマグネット】
ブルードームが描かれたマグネットもある。



【ウゾ(ギリシャのお酒)】
ワインを作った搾りかすからつくる度数の高いお酒。



【オリーブオイル】
試飲できるお店もあるので味見して決めるのもいい。



【青いガラス製品】
ガラス工芸品も土産物として多く並んでいる。
【陶器製の街のミニチュア】
ギリシャの街並をモチーフにした陶器の小物。



オーロラは写真の方が色が映えるともいわれるが、肉眼で直接見られる体験は一生の思い出となる。

Northern Lights Miracle Show

1: 帯状に長くたなびいていくオーロラに向かってオーシャンドリーム号は進む。
2: 複数のオーロラが、連なり重なりながらデッキ上空に現れた。3: うねりながら姿を変える。同じくたちはない光のショーが何度も繰り広げられた。



船上から見るオーロラは大きく美しい。神秘的な姿と躍動感はデッキにいる乗船者たちを圧倒した。

オーロラを撮影するポイント

- ① 感度: 3,200~6,400に設定。
- ② 手ブレ対策: 三脚を使用。(なければ落ち着いてシャッターを切ればOK!)
- 船の一部を使ってカメラを固定するのはNG! 船のエンジンの振動でかえって大きくブレてしまします。



の極致に、デッキは興奮に包まれた。またその晩は特にオーロラの発生回数が多く、未明まで断続的に現われた。海上はオーロラを邪魔する光源がなく、船は雲のない海域へ移動できるメリットがあるといえ、大きな幸運に恵まれた夜だった。「言葉にならないほど美しく感動した」「こんなに見られるとは思つていなかつたので最高だった」「オーロラのアーチをバックに写真が撮れた」、この日のオーロラのショーは、乗船者たちの心に鮮やかに残り続けることだろう。

第102回クルーズがオーロラベルトに入ったのは10月22日。最大の見せ場は26日にやつてきた。通常ではあまり出ない19時半頃に船内アナウンスがオーロラの発生を報せた。乗船者がデッキに出ると、オーロラが夜空を生き物のように流れ、その姿を縦横に変えながら光のスペクタクルを繰り広げたのだ。圧倒的な美しさと神秘

ピースボートクルーズのなかでも近年人気が高いのが、船からオーロラ鑑賞ができる航路だ。オーロラシーズンのアイスランドにはこれまでに何度も訪れているが、昨年12月に日本へ帰港したばかりの第102回クルーズは、今まで一番のオーロラ発生回数となつた。そのときの様子とともに、船上から見るオーロラの魅力について改めて紹介したい。

船上から見る光のショー

クルーズ史上最大級のオーロラ発生

「生のうち一度でいいからオーロラを見てみたい」という人は少なくない。オーロラは、緯度60°~70度付近の北極から南極を橢円形状にぐるりと囲むオーロラベルトと呼ばれるエリアで見ることができる。ピースボートクルーズでも訪れるアイスランドは、国全体がオーロラベルトの中心に入っているため、オーロラ鑑賞に最も適していると言われている。

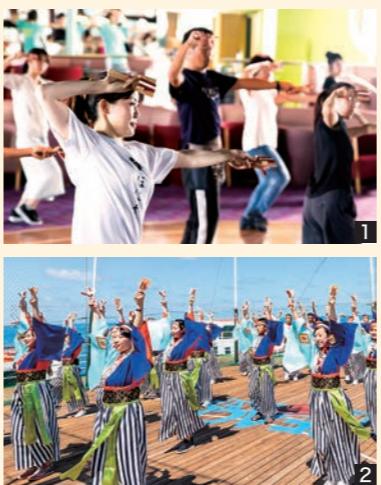
ところで、オーロラがどのように発生するかご存じだろうか。ここで少し専門的な話を紹介しておこう。太陽から地球に向かつてエネルギーが放出され2、3日で地球に迫り着くが、そのなかに「電気を帶びた粒子」が存在する。地球上には磁気圏という磁気のバリアがあるため、基本的にこの粒子は地球上はわずかなすき間があり、そこに入り込んだ粒子が磁気圏に到達し、大気と衝突することでオーロラが生まれるのだ。

第102回クルーズがオーロラベルトに入ったのは10月22日。最大の見せ場は26日にやつてきた。通常ではあまり出ない19時半頃に船内アナウンスがオーロラの発生を報せた。乗船者がデッキに出ると、オーロラが夜空を生き物のように流れ、その姿を縦横に変えながら光のスペクタクルを繰り広げたのだ。圧倒的な美しさと神秘

高知のよさこいチーム「ほにや」とコラボ
ピースボートよさこいプロジェクト
「ほにや丸」を結成



第101回クルーズで、ピースボート初のプロジェクトが遂行された。その名も「ピースボートよさっこプロジェクト」。ご存じ、高知県発祥のよさこいを通じて、日本文化を世界へ発信するプロジェクトとして誕生した。高知の有名なチームである「ほにや」とのコラボレーションによって講師に岡田良太さんを迎えた、「ほにや丸」を結成。そのメンバーは日本をはじめ、アメリカ、中国、台湾、香港などの国や地域からの参加も多く、国境を越えた構成になつたことも特徴だ。



1:国際色豊かなメンバーで構成された「ほにや丸」は練習を重ねるごとにチーム力がアップ。2:船内の練習場所から移動して青空の下で気持ち良く練習。

第104回クルーズで「ほにや丸」メンバーを募集します。

「ピースボートよさこいプロジェクト」は、第104回クルーズでも実施することが決定しました。年齢経験は問いません。世界へよさこいを発信することに关心がある方はぜひご参加ください。

クルーズの序盤から船内での練習がスタート。岡田さんの指導でメンバーは基本の動きから習得。練習場所では鳴子の音を響かせながら、楽しくも厳しい練習が続いた。その後、「ほにや」プロジェクトの樂曲にのせてフォーメーションを組みながらの練習へ。用意されていたオリジナル衣裳を身に着けると二段と気持ちは引き締まった。船上での練習では赤と青を基調にした衣裳が、空と海に映え、見学者たちから大きな声援が飛んだ。

重ねてきた練習の成果は、当初の計画通り各国で披露された。デビューはエジプト。なんとピラミッドが後ろに見えるホテルの屋上での演舞だった。フィジーではビーチのクリーンアップやスポーツ・ダンス交流の後によさこいを披露。このほかコロンビアやオーストラリアでも演舞し、まさに日本文化を届けてきた。

力強い演舞を世界各地で披露

最高の見せ場は、ニューヨーク。6月8日の「世界海洋デー」の国連公式イベントで、ピースボートは現地の市民団体と連携し、前日から2日間に渡りさまざまな企画を通して海洋保護のメッセージを発信した。このイベントの最後を飾ったのが「ほにや丸」のよさこいである。抜けるような青空をバックに、船上で「糸乱れぬ見事な踊り」を披露し、500人を超える各國の政府代表団の心をつかんだ。空も海も青い今まで次の世代に残したい、という気持ちの込もったパフォーマンスだった。演舞を終えたメンバーたちの表情も充足感に満ちていた。



「世界海洋デー」のトリとして登場。喝采を浴びる。



フィジーの若者たちとスポーツとダンスで親交を深めた。



ピラミッドを背景によさこいを披露。まさに異文化の交流。



トップ指導者を迎えた妥協を許さない練習で、チーム一丸となって演舞を完成させた。演舞の間、メンバーは自信みなぎる、楽しそうな表情をみせた。

SAILING AROUND THE WORLD
～アジア友好とSDGs写真展～



11月中旬、日中友好会館で「美しい地球を守りより良い未来を創る」をスローガンにした、国連SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みをテーマに写真展が開かれた。そのオープニングセレモニーでは、水先案内人で作家・ジャーナリストの莫邦富（モーバンフ）さんや女優の東ちづるさんからもメッセージを頂戴し、ほにや丸も演舞を披露した。展示された写真は、第101回クルーズに参加した、アジア各国など10以上の国や地域の1,000名が記録した写真の中から厳選した約70点の作品である。また、12月には高知市内や中国の西安でも写真展が開催され好評を得た。今回のよさこいや写真展などのように、アートを通して発信される国境を越えた友好の証は、見る者に大きな感動を与えることだろう。

ヤシが茂り緑が映え、鳥がさえずる、水郷を往く

インドのコーチンはピースボートクルーズにとって、お馴染みの寄港地である。古くからアラビア海に面した商業と貿易で賑わった港町で、古代ローマ、ユダヤ、アラブなどから多くの商人が訪れた。16世紀初頭のヴァスコ・ダ・ガマの来航以来、ポルトガルによって占領され、以後、オランダ、イギリスの統治のもと、さまざまな文化、宗教の影響を受けながら独特な発展を遂げてきた。現在もインドの主要産業都市のひとつである。

コーチンの南側に位置するアレッピーの水郷地帯は、南インドの見

どころとして取り上げられことが多い。ボートに乗つていくバックウォータークルーズは、探検隊気分になつて、生い茂るヤシの木々、野鳥、自然植物など南インドらしい風景を楽しむことができる。「ナショナルジオグラフィック」誌が選ぶ「人生で訪れるべき100の風景」にも選ばれた、水と緑が織りなす楽園のような素晴らしい景色だ。また水郷は、付近に住む人々の生活の中心であり、自然とともに生きる暮らしづくりも眺めることができる。優雅な時間が流れるクルージングをぜひ楽しんでほしい。



1・2:水辺に住む人々の昔と変わらない暮らしぶりも心を和ませてくれる。3:ボートの帆先に座って水郷を進めば気分はジャングルクルーズだ。



自然豊かな美しい南インド 古都コーチンを訪ねて

賑やかな印象のある北インドに比べて、南インドは美しい自然と穏やかな雰囲気が魅力だ。南端に位置するケーララ州のコーチンは海洋の要所として古い歴史をもち、人々はフレンドリーであり、旅行者を温かく迎えてくれる。さまざまな国の文化を包み込みながら発展してきた街には、観光の見どころも多い。また水上の楽園ともいわれるアレッピーで、ボートに乗りながらのんびりクルージングすれば、極上の癒しのひとときを味わえる。

ヘルシーな南インド料理 本場の味を堪能したい

インドは北部と南部では食文化が異なる。南インドでは米飯が主食。野菜や豆、魚を使った料理が多いのも特徴。お土産は民族衣裳のサリーをはじめ色彩豊かなストールやアクセサリーも人気がある。



南インドのカレーは野菜や魚を使つたスパイシーな味付け。



日本でも人気の「ミールス」は定食のこと。ライスとスパイス料理を混ぜて食べる。



インドらしいカラフルな色づかいのアクセサリー。



作り手によって表情や衣裳が違う特産品の操り人形。

開運のシンボル象の置物
もお土産に人気。



1:多くのスパイスが栽培されているスパイス農園の見学もインドらしい。2:ポルトガル人が建てたインド最古の教会といわれる「聖フランシス教会」。3:本場のヨガを体験。心と身体の調和をめざして、基本の呼吸法から学ぶ。4:サリーの専門店。広げて見せてくれる。きらびやかで美しいサリーに思わず手が伸びてしまう。



マーケットにはさまざまな洋服やバッグ、雑貨などを扱う土産屋が軒を連ねる。



旧市街で歴史を辿りインド文化にふれる

この地域特有の魚を捕るための仕掛け「チャイニーズフィッシングネット」。捕つた魚は露店などでも売られている。

海岸線を歩くと巨大な網が目にかかる。これは植民地以前、14世紀に中国から入ってきたといわれる漁法の「チャイニーズフィッシングネット」。網を沈めた後漁師たちは魚が入るのを待つて10メートル以上の丸太を使いテコの原理で網を吊り上げる。このほか、お洒落な街並を散策しながら雑貨などがあるマーケットを回ったり、インドの伝統舞踊「カタカリダンス」を鑑賞したり、カレーに欠かせないスパイスを栽培している農園見学もお勧め。移動に、オートリキシャー（三輪バイク）を使えば、お土産話が増えるだろう。

コーチンの観光名所はアラビア海に面する半島部分の旧市街（フォート・コーチン地区、マッタンチエリ地区）に多くあり、ヨーロッパに統治されていた時代の建築物や歴史とインドの伝統が混在している。

「聖フランシス教会」は1503年にポルトガル人によって建てられたインドで最も古いキリスト教会

のひとつ。インド航路を開拓したヴァスコ・ダ・ガマが埋葬されている教会としても有名だ。「シナゴーグ」は紀元前からコーチンに住んでいたユダヤ人の会堂。「ダッヂパレス」は、ポルトガル人が友好の証として、コートンの王のために建設され、現在は博物館になっている。

海岸線を歩くと巨大な網が目にかかる。これは植民地以前、14世紀に中国から入ってきたといわれる漁法の「チャイニーズフィッシングネット」。網を沈めた後漁師たちは魚が入るのを待つて10メートル以上の丸太を使いテコの原理で網を吊り上げる。このほか、お洒落な街並を散策しながら雑貨などがあるマーケットを回ったり、インドの伝統舞踊「カタカリダンス」を鑑賞したり、カレーに欠かせないスパイスを栽培している農園見学もお勧め。移動に、オートリキシャー（三輪バイク）を使えば、お土産話が増えるだろう。

ピースボートクルーズでは、スタッフが事前に現地を下見し、受け入れグループの人たちと一緒に企画する「交流プログラム」を用意している。観光地巡りとはひと味違う場所を訪問し貴重な体験ができる人気プログラムだ。

貴重な体験機会を提供 交流プログラム

女性の自立支援を考える



ケーララ州では女性の教育、職業訓練に積極的に取り組んでいる。



工房を見学。手工芸品は女性たちの自立の支え、生活の糧になっている。

ケーララ州はインド全土のなかで経済的に豊かな地域。そのため1960年代から出稼ぎにくる人が増え、それにより職を失うことが社会問題化した。そこで貧しい女性の生活向上のために職業訓練を行っている団体がある。プログラムでは、施設を訪れて女性たちの現状について話を聞き、技能を身につけるための裁縫や刺繡などを活かした手工芸品作りも見学する。地域レベルで行われている労働問題に対する取り組みから学ぶことは多い。

南インドの孤児院を訪ねて



施設では子どもたちの無邪気な笑顔が迎えてくれる。

周辺の街から出稼ぎにきたまま、ホームレスになり麻薬中毒になってしまった人がいる。そうした背景から児童労働、人身売買の危機にさらされ、孤児院で保護された子どもたちを訪問するプログラムだ。スポーツ道具や衣類、文具などを届けるほか、年代別の保護施設や避難シェルター見学が組み込まれる場合もある。参加者は、現地の状況を知り、また子どもたちと交流することで、インドの現状を自分事として考えるきっかけになるだろう。

船上百景 [お正月]



デッキで迎える初日の出は感慨もひとしおだ。それぞれが今年一年の願いを込める。



おせち料理をお供に仲間と一緒に新年会。



百人一首や餅つきなど正月らしいイベントがたくさん。

船上百景 [お正月] 今年一年も良い年でありますように
船上で迎える初日の出に感動、
今年一年も良い年でありますように
大晦日、一年も残りわずかとなる頃、船内では
カウントダウンパーティーが始まる。「…3、2、1」
のかけ声とともに、仲間と迎える新しい年。昨年
を振り返り、今年の抱負を語り合う。仲間とのこ
うした年越しも船旅ならではのもの。

年明け最初のイベントは、もちろん初日の出。
水平線が徐々に明るくなり、ついに朝日が昇り、歓
声が上がる。今年一年の平穏を祈りながら、船上
で迎える初日の出の大きさ、美しさに感動する。

紅白の垂れ幕がかかり、お正月気分を盛り上げ
る。乗船者の多くが、美しさに感動する。
「よしよしよー」のかけ声とともに木蓋が割れる音が
響き福を分かちあう。この一杯も格別だ。

船上では書き初め、餅つき、隠し芸などをはじ
め、華やかなイベントが催され、今年も賑やかな
お正月が始まった。

そんな現代において、「ピースボートク
ルーズは昔の長屋みたいだよね」と乗船経
験のある方から言われたことがあります。
「向こう三軒両キャビン」「遠くの親戚よ
り共に旅した船仲間」というように、かつ
ての日本に多くあった“地縁”による支え
合いのようなものが、船に乗ることで生ま
れる“船縁”としてずっと続くのもその理
由のひとつでしょう。

孤立とは「助けが得られず独り切り離
された状態」を指しますが、77億人が暮ら
すこの美しい星に、心も身体も温められる
場所が少しでも増えることを願うとともに、
私たちの船もそんなやさしい巣となる
よう、今年も年始からまいります。本年も
どうぞよろしくお願いいたします。(N・I)

編後
集記